

支部長就任及び新年のご挨拶



南九州病院 染矢 賢俊

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、九州支部定期総会・卒後教育セミナーを開催し、役員改選の承認をいただき新執行部発足の運びとなりました。改めまして、私、九州支部長の任を仰せつかりました染矢賢俊と申します。これまで事務局次長2年、副会長2年を務めさせていただきました。沖前会長の後を引き継ぐ人間としては甚だ力不足ではありますが粉骨砕身、取り組んでいく所存であります。お引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

平成30年を振り返ると、関東甲信での大雪からはじまり、大分での山崩れ、大阪北部地震、西日本豪雨災害、北海道地震、など災害が記憶に刻まれる年であったように思われます。被災された方々へは謹んでお見舞い申し上げます。我々検査業界においても2018年診療報酬改定と8月には医療法一部改正に伴う説明会を経て各種SOP、作業日誌の作成が義務付けられ12月からは各施設で運用が開始されているところであります。皆さん、大変な作業でしたね～。是非みんなで慰労会やりたいですね。

九州支部の活動としては、年3回の会報誌発行、隔年開催の九州支部学会、新春講演会、医療技術協議会学会の実施、卒後教育研修会は毎年開催しており、会員のスキルアップの充実に努めてまいります。

新年早々1月26日(土)には新春講演会を予定しており、森田茂樹九州グループ担当理事、兼平正彦九州グループ総括長、栢間貴宏機構本部情報システム統括部の3名の先生をお招きし、「今こそ臨床検査技師に求められること」、「国立病院機構の現状と将来像」、「診療情報集積基盤とデータ活用について」の講演を頂戴することになっており、執行部一同、成功裡をめざして準備を進めているところであります。また、今後の学術活動として卒後教育セミナー、医療技術協議会学会が予定されており、臨床検査技師として、医療人として会員のさらなる知識や技術の習得に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

研究班活動においては、各班長に年間計画をたてていただき現在活動できていない研究班も活発に動いてもらおうと考えております。江角誠・野中修一学術理事、研究班長さんよろしく申し上げます！

また、これらの活動をより充実させるためには、支部ホームページ・グループウェアの更なる有効活用が求められます。中村孝男・清家奈保子両広報理事、ホームページ委員さんを中心に「会員が使いやすくなるホームページ・グループウェア」の構築に取り組みたいです。会員の皆様、是非とも情報やご意見をお寄せください。偉そうなことを言っている私、染矢が一番の不安材料であります。牟田正一副会長、丸山晃二事務局長、佐藤圭事務局次長、安達知子会計理事、松下義照専門職、各県理事、会計監査、役員推薦委員、事務局員、技師長協議会の皆様のお力添えをいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は改元の年ですが30年続いた平成という元号は「内外、天地とも平和が達成される」という願いを込めたものであります。はたしてどうだったのか…それぞれ思うところは違うと思います。臨床検査の場面でもこの30年での変革は目を見張るものがあります。30年前の代表的な生化学機器のスペックは同時32項目測定で600テスト/時、に対して現在では70項目測定で2000テスト/時をほこっています。各部門に於いてもオートメーション、AI化が進み医学の発展に伴い新たな検査項目の必要性の高まりと共

に更なる高速化・合理化が進んで行くことは容易に想像できます。この様な状況にあっても臨床検査技師が必要不可欠となるよう我々が進化しなければなりません。現在、日臨技、国臨協本部がこの状況を回避すべく様々な対策を示してくれています。九州支部では国臨協本部、技師長協議会、各支部との連携を深めご指導をいただきながら支部活動を進めてまいり所存ですので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。